

## 芸能のムラ—野嵩—

野嵩ではムラアシビ(豊年祭)・綱引き・エイサー・アガリーボンボン・フェーヌシマ・クシユックイ・サングワチャー・モーアシビ等の



忠臣護佐丸

の民俗芸能が行われていました。

当時のムラの主導者たちは「アシビこそムラの繁栄とムラ人の健康に繋がるもの」と認識していたようです。演目は指導者たちの意識の高さと新しさを加える心掛けが合体して独自のものとなり、本島中部において群を抜くアシビの地域となりました。

戦中戦後の混乱期は伝統行事も途絶えましたが、復活された後は沖縄各地のムラアシビの決まりを正しく継承して、今日でも多くの特徴ある演目が自信と誇りを持って演じられています。



終戦後に復活したムラアシビは、多くの人々の心を癒し、生きる力と喜びを与えました。

<野嵩で1948年に使われた蚊帳(かや)製の組踊衣装>



■ 戦前の野嵩集落イメージ図

## 野嵩について

野嵩は宜野湾市東方の石灰岩台地上に位置し、方言で「ヌダキ」と言います。

1671(康熙10)年に宜野湾間切が設置される以前は中城間切の一部でした。

湧水は豊富でしたが水田は少なく、芋が主食でした。サトウキビ・サツマイモ・大豆・麦・粟・モチキビ等を輪作しながら、雌牛の飼育も盛んで肉牛として県外に移出していました。

開戦後すぐに民間人収容所として利用されたので大きな戦災は受けず、近世来の碁盤目状の区画をほぼ保っています。戦後の人口増加に伴い、1964(昭和39)年に野嵩一区(旧集落)・野嵩二区・野嵩三区が発足しました。

戦中戦後の混乱期には伝統行事も途絶えましたが、生活が安定した後、「ちなひちもうい」「ウチチウマチー」「マールアシビ」が復活され、野嵩一区自治会に受け継がれています。

### ■ 宜野湾市全域図



野嵩の位置

### 編集・発行/ 宜野湾市教育委員会文化課

〒901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-2  
TEL.098-893-4430

### 編集協力/ 株式会社アートリンク

〒901-0146 沖縄県那覇市具志 3-17-22  
TEL.098-894-5397

印刷/ □□□□□□□□□□

〒000-0000 沖縄県〇〇〇〇〇〇-00-00  
TEL.000-000-0000



ぬだき

# 野嵩歴史文化遺産マップ



## 収容所のあったムラ

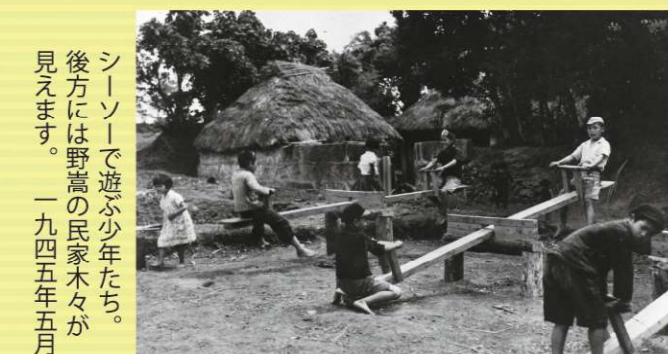
1945(昭和20)年4月1日に沖縄本島へ上陸した米軍は3日後、野嵩に民間人収容所を設置しました。戦時中は攻撃対象とされず、破壊を免れた民家の母屋をはじめ、家畜小屋に至るまで収容所として使われました。保護された民間人は一時期、野嵩で過ごした後に北部の収容所へ移送されました。戦況がすすむにつれ収容される民間人は増加し、ピーク時には1万人余の人々が暮らしていたといわれています。湧き水の豊富な野嵩でしたが、人が増えたことで水不足となり、真夜中から水汲みに並んだそうです。

米軍は民間人を保護するとともに、野山に放置された死体の埋葬や、伝染病予防の消毒作業などにもかりだしました。また、クシヌカー前の窪地にはコンクリートで造られた貯水槽があり、野戦病院から送られてくる負傷兵のシャツ、タオル、包帯、毛布などを洗濯させました。



洗濯をする女性たち。野嵩クシヌカーか? 一九四五年 <沖縄県公文書館 所蔵>

戦後、本島北部等の収容所から帰村した野嵩の住民は地元には戻れたものの、他市町村出身者や、戦前の居住地に戻れない宜野湾村民が住んでおり、すぐに元の住居に戻る事はできませんでした。また、村民の多くが野嵩・普天間地区に集中していたため、野嵩の民家を借りて村役場にし、戦後復興に取り組みました。



シーソーで遊ぶ少年たち。後方には野嵩の民家木々が見えます。一九四五年五月